

創作活動の楽しさを味わわせ、 感受や表現の工夫の能力を高める音楽教育

深谷中学校

1 音楽教育における感受・表現

生きる力の育成が叫ばれるようになって久しい。音楽教育においては、音楽的な感受や表現の工夫の能力が21世紀に生きる子供たちにとってかけがえのない能力となろう。

音楽教育は「音楽への関心・意欲・態度」「音楽的な感受や表現の工夫」「表現の技能」「鑑賞の能力」という4つの観点で支えられている。音楽の授業は音楽室で行われることがごくあたりまえなことではあるが、生活の中の「音」は私たちの身の回りに溢れ、音楽室では演出できないような「音色」を楽しむことにも生徒は感心を示す。

こうした生徒の期待に応えるために、時に音楽室を離れ、別の空間において「音の授業」を演出することができるのではないかと考えた。「表現」と「技能」は密接な関係にあることは間違いないが、「技能」が不足しても「表現」できる世界が情報機器を活用した音楽教育の世界にあるのではないかと。

そこで、本年度は、上記のような背景に基づきコンピュータソフト「音楽帳」を活用した、大胆かつ繊細な実践を報告する。

2 指導計画および本時の学習

第3学年4組 音楽科学習指導案

平成13年11月5日(月)第4校時

場所 コンピューター室

1 題材名 コンピューター音楽を楽しもう

2 題材について コンピューターを使って自分のイメージにあった表現を工夫したり、伴奏をつけたりすることで音楽活動への興味関心を高めたい。また、音楽ソフトの活用により、楽譜を扱うことの苦手な生徒でも容易に創作活動ができるので、その楽しさを味わわせたい。

3 指導計画 (3時間)

音楽ソフトの起動、保存、終了など基本的な操作になれる。

楽曲のデータをコンピューターに入力する。

第1時

コンピューターを活用して楽曲を編曲する。……………第2時(本時) 第3時

4 本時の学習

(1) 本時の目標 旋律にあった伴奏パターンを組み合わせ、楽しく音楽づくりができる。

(2) 展開

学習内容	生徒の活動	教師の支援・指導	評価等
「リパブリック賛歌」の演奏を聴く(CD) コンピューターで入力された生徒作品をいくつか聴く。 本時の目標を確認する。	指定された楽譜が正確に入力されているか、またどんな工夫が見られるか注意して聴く。	原曲の音色や伴奏などに気をつけて聴くよう指示する。 音符だけでなく、曲の雰囲気にあつた音色、強弱、テンポなども工夫されていることに気づかせる。 ワークシートを使って説明をする	友達の作品に興味を持って聴いているか。

旋律にあった伴奏をつけよう

<p>旋律にあった和音を選び入力する。</p>	<p>音楽をつくるソフトを起動し、前時に入力した自分の作品を聴いて確認する。ワークシートに提示された6つの和音から旋律にあうものを選び1小節ずつ入力していく。</p> <p>旋律の音色にあった和音の音色を選ぶ。</p>	<p>音色、強弱、テンポなどの指示もできているか確認させる。実際に音を聴きながら、旋律とあう響きの和音を探し、いろいろ試してみるよう指示する。入力に時間のかかる生徒を援助する。</p>	<p>音楽ソフトの起動が正しくできるか</p>
<p>完成した作品を聴く 決めた和音をもとに伴奏型を考える。</p>	<p>友達の作品を聴く。 ワークシートに提示された伴奏パターンを自由に組み合わせ、旋律にあった伴奏をつくる。</p>	<p>できあがったらデータをFDに保存しプリントアウトさせる。 作業をやめて聴かせる。 教師のつくった伴奏例を参考に聴かせる。</p>	<p>意欲的な活動ができているか</p>
<p>本時のまとめと次時の確認</p>	<p>できたところまでをFDに保存しプリントアウトする。</p>	<p>(a a' b b') の二部形式であることを知らせ、伴奏の形にも変化をつけると効果的であることを助言する。 次時で完成させることを確認する。</p>	<p>自分の作品と比べながら聴いているか</p>
			<p>創意工夫し楽しく取り組めたかを自己評価する。</p>